

11 モンゴル国

AMD Aモンゴル支部長

オユンチメグ・マグナロフ医師(51)



草原が国土の約8割を占める自然豊かな国。近年、経済の発展が著しく、2011年には成長率17.3%と「V字回復」を遂げました。大相撲では白鵬をはじめ、これまでに横綱4人を輩出するなど日本に親近感を持っています。過去には武力衝突した悲しい出来事がありました。

約80年前の1939（昭和14）年。満州国軍とモンゴル人民共和国軍の衝突を端に発し、両国の後ろ盾となった大日本帝国陸軍とソビエト労農赤軍が戦闘を展開しました。

この衝突を日本では「ノモンハン事件」と呼び、「国境紛争にすぎない」としています。一方、モンゴルでは「ハルハ河戦争」と名付け、「事件ではなく戦争だった」と主張。両国で認識の違いを見せています。

この軍事衝突ではモンゴル民族が敵味方に分かれて戦い、45年のソ連の対日参戦の際も多くのモンゴル人が巻き込まれました。モン

衝突の悲劇越え支援事業

眼科検診や人材養成



ゴルだけでなくソ連、中国、日本の人々の尊い命が広大な草原に散り、いまだ遺骨は祖国に帰れず放置されたままの人たちもいます。

AMD Aグループの菅波茂代表は2006年、初めてモンゴルを訪問。当時のエンフバヤル大統領にAMD Aの相互扶助の理念を説明し、支援事業の実施を申し入れ、同意を得ました。

AMD Aの動きは迅速でした。2年後の08年にはモンゴル仏教総本山のガンダン寺院で「平和祈願祭」を開催。その後も毎年、実施しています。

10年にはモンゴル眼科医協会の協力で、モンゴルの元従軍兵士と妻に無償で白内障手術を実施。これを皮切りに毎年、子どもの眼科検診を行うとともに、日本から視能訓練士を派遣し、技術の移転指導にも取り組んでいます。

翌11年には、AMD Aがグローバル社会に対応できる人材養成を目的とした「おかやま国際塾」を開催。日本人学生8人がモンゴルで研修

を受けました。

塾生と対談した元従軍兵士は「今でも殺されかけ、手足を縛られる夢を見る。頭の中では今も戦争が続いている」と過酷な体験を振り返り、「白黒を見極める賢さを持ってほしい」と強調しました。

12年にはAMD A本部の支援を受け、モンゴル支部が待望の「日本モンゴル友好病院」を首都ウランバートルに開設しました。

AMD Aのこうした活動が評価され、14年にはモンゴル国が外国人に出す最高位の勲章「北極星勲章」が菅波代表に贈られました。

17年にはAMD Aの念願が実り、モンゴル保健省が9月15日を「子どもの眼の日」に制定することを正式に発表しました。



モンゴル国 東アジア北部に位置する共和制国家。面積は日本の約4倍の156万4000平方キ。人口は312万人。公用語はモンゴル語。主要産業は鉱業、牧畜業など。AMD Aモンゴル支部はウランバートルにあり、2000年に開設。スタッフは4人。

眼科検診を行う視能訓練士